

アイヌ生活文化再現マニュアル

喫煙具

【タンパクオプ・ニキセリ】

発刊にあたって

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、平成9年7月の創設以来、アイヌ文化の振興、アイヌの伝統やアイヌ文化に関する知識の普及と啓発、アイヌ文化等に関する研究の推進や助成などの各種事業を実施しております。

そうした事業の一環である「アイヌ生活文化再現マニュアル作成事業」は、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などによって記録し、アイヌの人々をはじめとして、広く一般の人々や研究者の利用に供することにより、アイヌ文化の伝承・保存を図ることを目的としています。

本マニュアルがより多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の振興が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

目 次

はじめに	7
材料	9
道具	13
タンパクオプ (たばこ入れ)	15
材料の加工	15
胴体の加工	19
中をくり抜く	19
ふちを削る	21
側面を削る	25
胴体の上部と下部の加工	26
ふたをつくる	29
底をつくる	32
木釘をつくる	33
組み合わせる	34
表面の加工	37
文様を入れる	38
アイウシノカ (とげのある形)	39
シツノカ (ひし形)	39
ペシツノカ (波形)	40
ラムラムノカ (うろこ形)	41
完成	42
ニキセリ (木のきせる)	43
火皿をつくる	43
表面の加工	45
穴をあける	45
羅字の加工	46
吸い口の加工	46
文様を入れる	47
完成	48

きせる差し	49
材料の加工	49
表面の加工	50
受けをつくる	51
文様を入れる	53
仕上げ	54
完成	54
緒締め	55
緒締めをつくる	55
完成	56
完成	57
おわりに	59
参考文献	60
喫煙具を展示・収蔵している施設	62

— 凡 例 —

- ・映像編で入れることのできなかつた解説等も記しました。したがって、文言等で映像編と異なる個所があります。

はじめに

アイヌの人々は、昔から日々の生活に必要な用具の多くを、自らの手でつくってきました。喫煙具もそのひとつで、アイヌの人々のものづくりの技が生かされています。



「タンパクオウ」 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構蔵

たばこは、アイヌの人々に嗜好品として親しまれており、儀礼の時にも用いられるなど生活に深く結びついていました。



「蝦夷風俗十二ヶ月屏風」
北海道開拓記念館蔵



拡大図



「たばこの葉」 北海道開拓記念館蔵

喫煙具は、たばこ入れ、きせる、きせる差しが一組となっています。

たばこ入れはアイヌ語では、タンパクオプ、きせるはキセリまたは「木のきせる」を意味するニキセリと呼びます。

タンパクオプには、つくり手によって様々な文様が施され、それぞれのつくり手の想いが込められています。



「たばこ入れ、きせる、きせる差し」北海道開拓記念館蔵

本マニュアルでは、アイヌの人々の伝統的な様式や手法を出来る限り取り入れ、喫煙具のつくり方を紹介します。今回は、平取町の工芸家、貝澤幸司さんが再現します。



製作者

工芸家

貝澤 幸司さん

(平取町在住)

材料

○イタヤカエデ

たばこ入れときせる差しの材料には、イタヤカエデを使います。(写真1、2)

アイヌ語でトペニと呼ぶイタヤカエデは、カエデ科の中ではもっとも大きく成長する樹木で、硬くて粘りが強いことが特徴です。マキリ(小刀)やイクパスイ(捧酒籠)などにも使われ、昔の工艺品にはイタヤカエデでつくられたものも多くあります。生木は歪みやすいので、十分乾燥させて使います。



写真1



写真2

イタヤカエデの丸太です。あらかじめ十分に乾燥させておきます。(写真3)



写真3

直径25cmほどの丸太をおよそ40cmの長さに切ります。

(写真4、5)



写真4



写真5

縦に半分に分け、一方はたばこ入れの材料、もう一方は、きせる差しの材料にします。(写真6、7)



写真6



写真7

○ノリウツギ (サビタ)

きせるの材料はノリウツギです。サビタと言うところもあります。(写真8、9)

アイヌ語でラスバと呼ばれているノリウツギは、森では日当たりの良い場所に自生しています。

ノリウツギは中が空洞でスポンジ状になっており、外側が硬いことが特徴です。



写真8



写真9

新芽で、枝が分かれて曲がった部分を利用してきせるをつくります。(写真10)

今回はあらかじめ乾燥させてあった長さ約30cmのノリウツギを使います。(写真11)



写真10



写真11

○鹿の角 (写真12)

緒締め材料として使います。



写真12

○オヒョウの内皮 (アツ) (写真13)

オヒョウの内皮はアイヌ語でアツと言います。

オヒョウの内皮を編んで紐をつくり、たばこ入れにきせる差しをつける紐の材料として使います。



写真13

道具

○彫刻刀

貝澤さんが制作に使う道具は、おもに彫刻刀の丸刀、平刀、印刀です。(写真14、15、16、17、18)
かつては、型どりから文様の彫刻まで、マキリと呼ばれる小刀だけで行われたと言われていました。



写真14



丸刀

写真15



平刀

写真16



印刀

写真17



写真18

○ヤスリ (写真19)

緒締め の形を整えるために、ヤスリを使います。



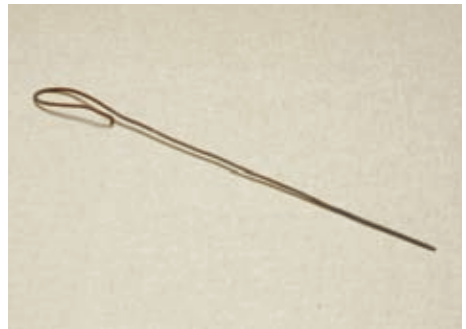
ヤスリ

写真19

○鉄の棒 (写真20)

きせるの穴をあける際に、長さ約50cm、直径0.2cmほどの鉄の棒を使います。

棒の先はとがらせてあり、その先を熱して穴をあけます。



鉄の棒

写真20

○その他

鋸や、貝澤さんが自分の使いやすいように独自につくった彫刻刀などを使用しています。

タンパクオプ (たばこ入れ)

材料の加工

たばこ入れは、胴体と胴体の上部と下部、ふた、底の部分からなっています。(写真21、22)



①胴体 ②上部 ③下部 ④ふた

写真21



⑤底

写真22

イタヤカエデの丸太から各部分の材料をとります。

最初に、半分に割った一方を長さ12cmほどに切ります。(写真23、24)



写真23



写真24

両端の樹皮に近い部分からそれぞれ5cmほど落とします。この部材は、胴体の上部(写真27の①)と下部(写真27の②)になります。(写真25、26)

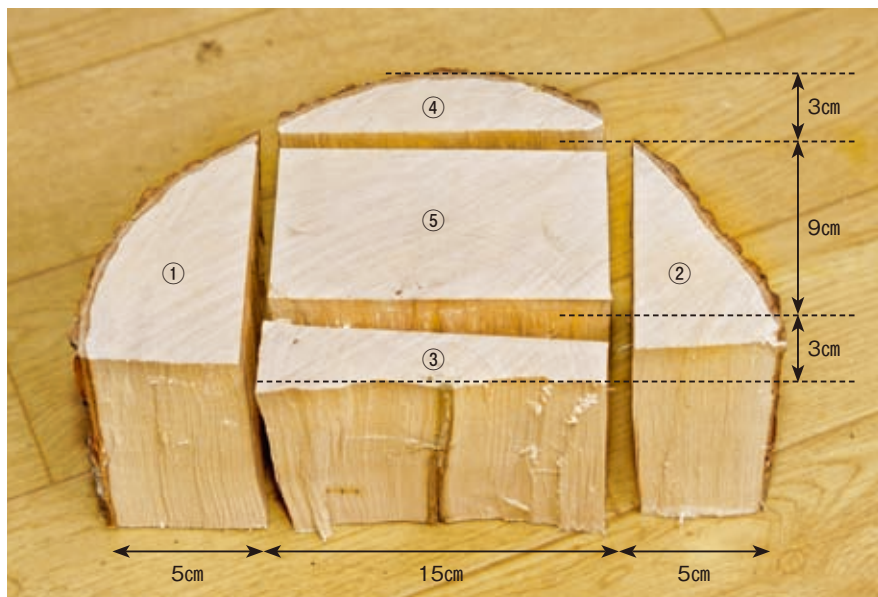


写真25



写真26

次に、芯に近い部分から厚さ3cmほど落とします。この部材はふた(写真27の③)になります。さらに、樹皮に近いもう一方から厚さ3cmほど落として、底の部材(写真27の④)をつくります。残った部材が胴体(写真27の⑤)となります。



①上部 ②下部 ③ふた ④底 ⑤胴体

写真27

次に、それぞれの部材を、2 cmから3 cm程度の厚さの板になるよう、平刀と木槌で割っていきます。

(写真28)

表面に残った樹皮は、平刀で削り落とします。(写真29)



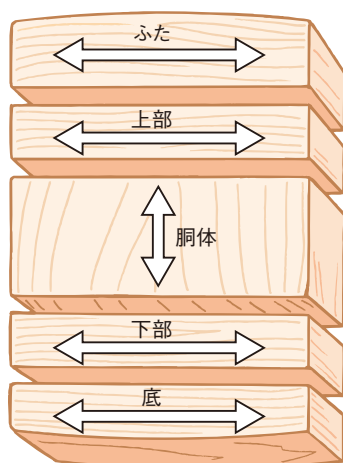
写真28



写真29

ふたや胴体を使う材料の厚さと木目の向きに気をつけ、4枚の板をつくります。(写真30)

全部縦目にするとう割ってしまうので、胴体は縦目、上と下の部分は横目にします。(写真31)



⇔ 木目の方向



写真30



写真31

4枚の板の表面を平刀で厚さ1.6cmになるまで削り、形を整えます。(写真32、33)
表面の厚みが均一かどうか削り具合をこまめに確かめ、作業を進めていきます。



写真32



写真33

厚さの調整が終わったら、材料の側面を削ります。(写真34)



写真34

縦10cm、横5cmほどになるまで削ります。(写真35)
これで、たばこ入れに使う材料がそろいました。(写真36)

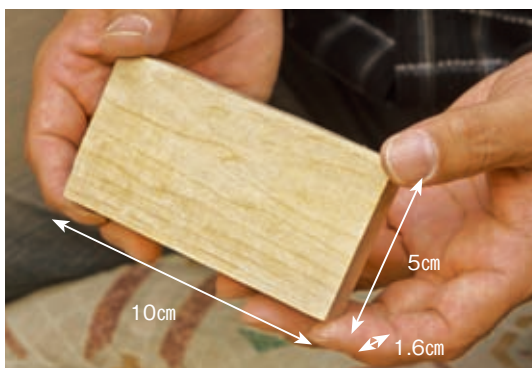


写真35



写真36

胴体の加工

中をくり抜く

最初に、胴体にあたる部材を高さ9.5cmに切ります。(写真37)

このとき、木片を挟みながら切ると割れずに切ることができます。(写真38)



写真37



写真38

次に、丸刀と木槌を使って材料の内側を長い方の径がおよそ6cm、短い方の径がおよそ3.5cmの楕円形にくりぬいていきます。(写真39、40)

はじめはくりぬく大きさより0.5cmから1cmほど内側を削り、少しずつ穴を広げていきます。

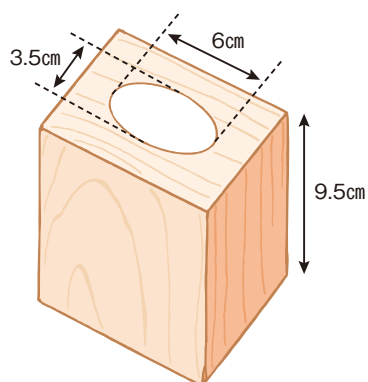


写真39



写真40

ある程度の深さまで削ったら、今度は反対側を削ります。(写真41、42)
穴の位置が表側とずれないように、あらかじめ印をつけておきます。
胴体の下を削るときには、上の穴より小さめに削っておき、後で大きさを合わせます。
外側から削るとゆがみが出るので穴の内側から削るようにします。



写真41



写真42

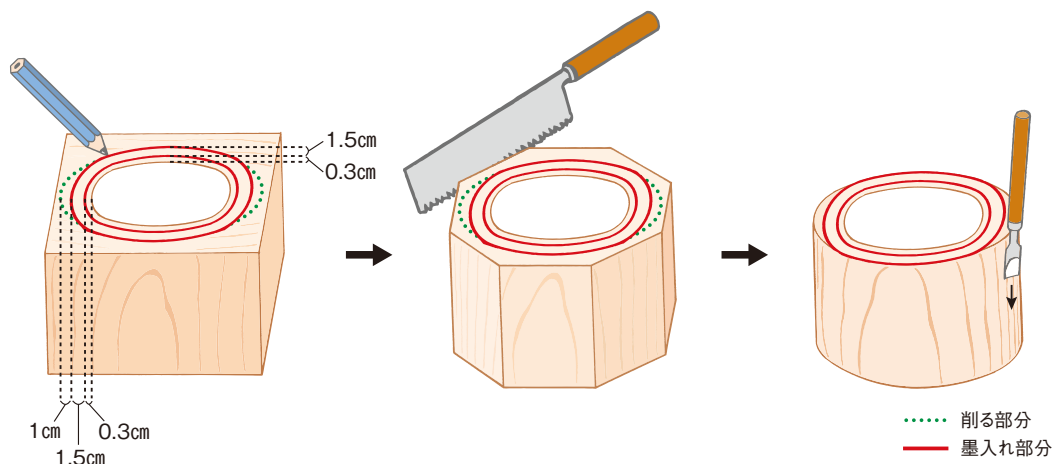
胴体の中をきれいにくり抜くことが出来ました。(写真43)



写真43

ふちを削る

続いて、くり抜いた穴の内寸から0.3cmの部分と1.5cmの部分に墨入れします。



平刀と木槌を使って、角を大きく落としていきます。このとき、楕円形の径の長い方は墨入れした部分より1cmほど長めに削ります。(写真44、45)



写真44



写真45

大まかに削った後は、表面を慎重に整えていきます。(写真46)



写真46

次に、胴体の上部、およそ3.5cmのところに、
鋸で深さ0.3cmの切り込みを入れます。(写真47)



写真47

ふたをとりつける部分のふちを厚さ0.3cmまで削
ります。(写真48、49、50)

木目によって割れることがあるので慎重に削り
ます。



写真48



写真49



写真50

大まかに削った後、平のみで薄く削ります。(写真51、52、53)



写真51



写真52



写真53

胴体の上部のふちが出来上がりました。
(写真54)



写真54

胴体の上部と同じ要領で、下部にも 2 cm のところで切り込みを入れます。(写真55)



写真55

平刀を使い、厚さが均一になるよう薄く削っていきます。(写真56、57)



写真56



写真57

表面を仕上げます。ふちの厚さはほぼ0.3cmです。(写真58)

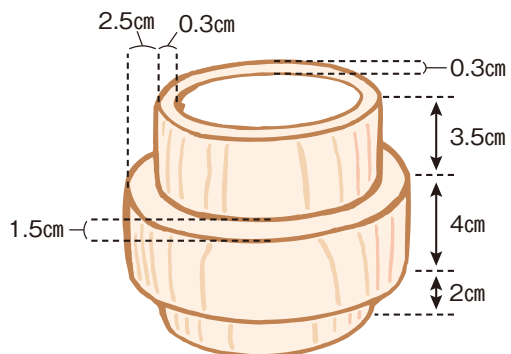


写真58

側面を削る

胴体の側面に直径およそ2.5cmの半円形の突起をつくります。(写真59)

突起の部分には、穴をあけてふたを留めるための紐を通します。丸刀を使い、胴体の側面を削っていきます。4か所をくぼませるように荒く削ります。(写真60)



写真59



写真60

削った部分を平刀で整えていきます。(写真61)



写真61

胴体の加工が終わりました。(写真62、63)

この部材に合わせてほかの部分がつくられます。



写真62



写真63

胴体の上部と下部の加工

胴体に組み合わせる上と下の部分をつくります。
最初に、胴体の上部に組み込む部分をつくります。
目安となる印をつけ、胴体の大きさに合わせて、
中央に穴をあけます。(写真64)



写真64

荒く削った後、ていねいに穴を広げていきます。
たびたび胴体と合わせ、大きさや隙間の空き具合を確認めます。(写真65、66)



写真65



写真66

胴体とこの部分はややきつめに合わせるため、削りすぎないように少しずつ穴を広げていきます。
(写真67)

胴体の口の広さに合わせて、部材に印をつけます。(写真68)



写真67



写真68

切り出しを使い、輪郭に合わせて切り込みを入れます。
輪郭の内側を深さ0.1cm程度削ります。(写真69)

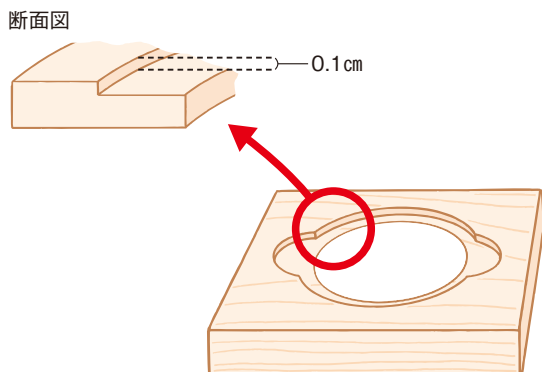


写真69

胴体と上の部分を組み合わせた状態です。
(写真70)



写真70

胴体の下部に取り付ける部分も、上部に取り付ける部分と同じように作ります。
これでそれぞれの部分を組み合わせることが出来ます。(写真71、72)



写真71



写真72

次に、胴体の上部に削った外側の線から0.7cmごとに二重の線を入れます。
鋸を使い、四隅を落とします。(写真73、74)



写真73



写真74

外側の線に沿って削っていきます。
上へ向けて傾斜をつけます。内側の線から外側の線に向かって末広がりになり削ります。(写真75、76)



写真75



写真76

胴体の上部に取り付ける部分の出来上がりです。
胴体の下部に取り付ける部分も同じように傾斜をつけて削っていきます。(写真77)

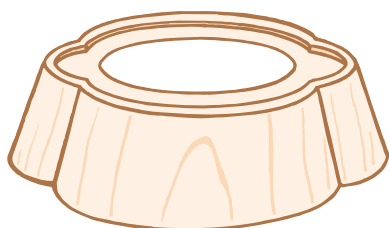


写真77

ふたをつくる

最初に、胴体のふたを取り付ける部分の高さを1.5cmほど切り落として、2cmにします。(写真78)
手触りを良くするために、切り口の角を彫刻刀で落とします。(写真79)
角は落としすぎないように注意します。



写真78

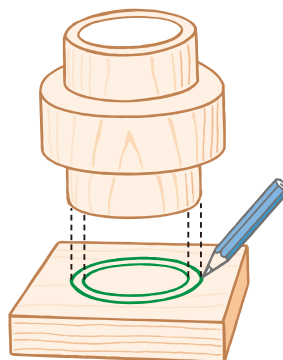


写真79

ふたになる材料に胴体の口の広さに合わせて印をつけます。線に沿って、彫刻刀で切り込みを入れます。(写真80)



写真80



外側の線と内側の線の幅はおよそ1cmです。線の間はふたと胴体の合わせ目にあたります。ここを深さ0.5cmほど削っていきます。(写真81、82)



写真81



写真82

外側を削るとゆるくなってしまうので、はじめは線のやや内側を削り、胴体との合わせ具合を見ながら少しずつ広げていきます。(写真83、84)



写真83



写真84

切り出しでなぞり、平刀で削ることを何度も繰り返します。始めはきついくらいにしておき、徐々にふたと胴体を合わせていきます。(写真85、86)



写真85



写真86

ふたと胴体の合わせ目には、すきまはほとんどありません。(写真87、88)

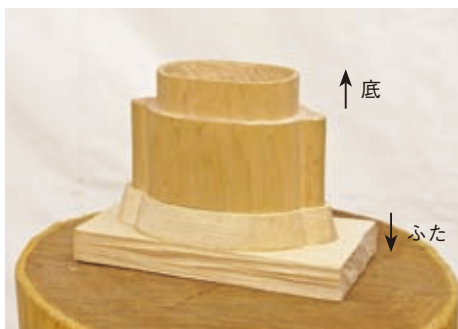


写真87

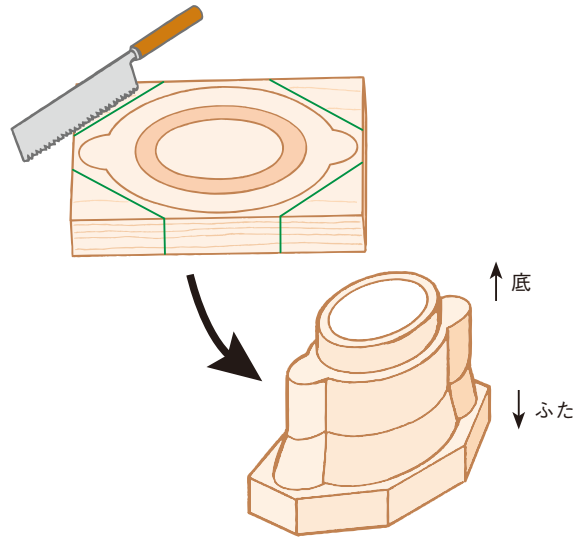


写真88

ふたの材料に墨入れをして、四隅を鋸で切り落とします。(写真 89)



写真89



ふたの周りを線より一回り大きく削っていき、胴体にはめて削ります。

本体上部と下部と同様に傾斜をつけて上になだらかに広がるように削ります。(写真90)

紐を通す部分も胴体の上部と合うように削り、側面がなめらかになるよう整えます。



写真90

ふたと胴体、胴体の上部と下部の出来上がりです。(写真91、92)



写真91



写真92

底をつくる

胴体の底になる板を削ります。

底の板と胴体を合わせながら、少しずつ削っていきます。(写真93)

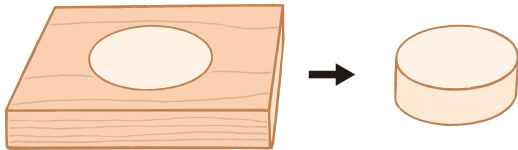


写真93

合わせたとき内側を見ます。(写真94)

胴体との隙間が見えなくなるように、底の板の周囲を削っていきます。

底の余分な部分を削っておきます。(写真95)



写真94



写真95

底に取り付ける板の出来上がりです。(写真96、97)



写真96



写真97

木釘をつくる

続いて、胴体の底などを留めるための木釘をつくります。

木釘の長さは6cmほどで、先端の直径が0.2cm程度になるよう細く削ります。(写真98)

材料は、胴体と同じイタヤカエデを使うことで、仕上げのとき用いた跡を目立たなくします。

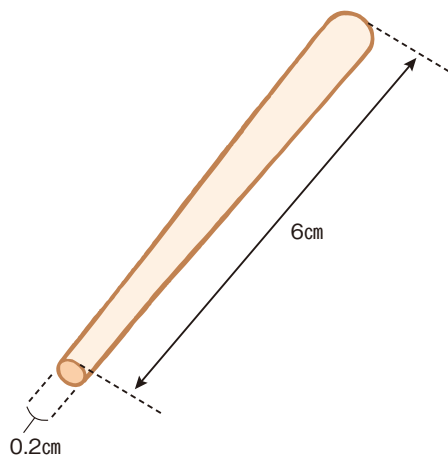


写真98

木釘は全部で8本用意します。(写真99、100)



写真99



写真100

組み合わせる

キリを使って胴体に紐を通す穴をあけます。上から穴をあけた後、下からキリで穴をあけます。(写真101、102) この穴は、胴体の左右2か所にあけておきます。



写真101



写真102

胴体と組み合わせる部分にも位置を合わせて紐を通す穴をあけます。(写真103、104)



写真103



写真104

4つの部分に穴をあけました。(写真105)

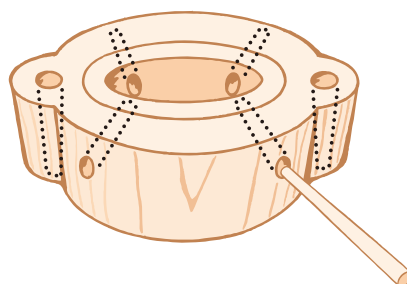


写真105

たばこ入れの底は4か所に木釘を打って留めます。
木釘を打つ穴をキリであけます。(写真106)
穴の深さが底の板まで達したら木釘を打ちます。



写真106



同じ要領で、胴体の底、周囲4か所に打っていきます。(写真107、108)
木釘は平のみで打ちつけます。



写真107



写真108

底の部分が胴体にしっかりと留められました。(写真109)
胴体から出ている木釘を落とします。(写真110)



写真109



写真110

底の板がしっかりと留まったところで、表面が同じ高さになるまで平らに削り、底の表面をきれいに整えます。(写真111、112)



写真111



写真112

次に、胴体に上部の部分を取り付け、木釘で固定します。

底の板を取り付けたときと同じ要領で、まず周囲の4か所にキリで穴をあけます。(写真113)



写真113

それぞれの穴に木釘をしっかりと打ち、余分な部分を削り取ります。(写真114、115)



写真114



写真115

表面の加工

たばこ入れの胴体の表面を削り、カーブをつけます。一番カーブの深いところで0.2cm程度削ります。(写真116、117)



写真116



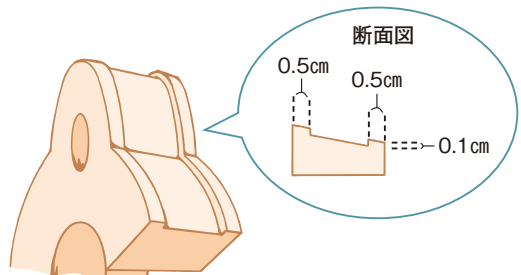
写真117

曲線部分を持たせることで、たばこ入れは手になじみやすい形になり、全体の印象がやわらかなものになります。

胴体の下部に取り付けた部分をふちと平行に、それぞれ0.5cmのところ切り込みを入れていきます。切り込んだ線の間を平刀で0.1cmほど削っていきます。(写真118)



写真118



文様が入れやすいよう、表面はなめらかに仕上げます。

胴体の上部に取り付けた部分とふたも同じように、それぞれ縁から0.5cm程度のところに切り込みを入れ、線の間を0.1cmほど削ります。(写真119、120)



写真119

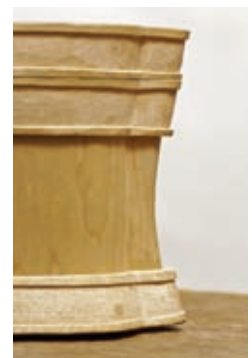


写真120

文様を入れる

あらかじめ鉛筆で文様の下書きをし、切り出しを使って切り込みを入れます。
今回は、伝統的な様式を取り入れ、貝澤さんがデザインをしています。

(写真121、122、123、124)



写真121



写真122



写真123



写真124

アイシノカ (とげのある形)

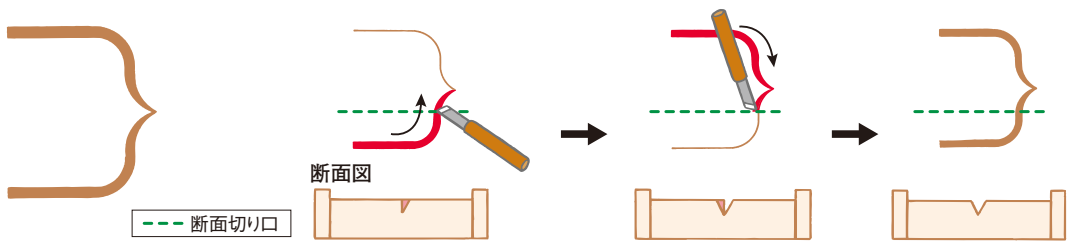
先がとがった形の文様はとげのある形を意味するアイシノカと呼ばれています。(写真125)
 文様の輪郭に沿って刃先を斜めに入れます。(写真126)



写真125



写真126



シクノカ (ひし形)

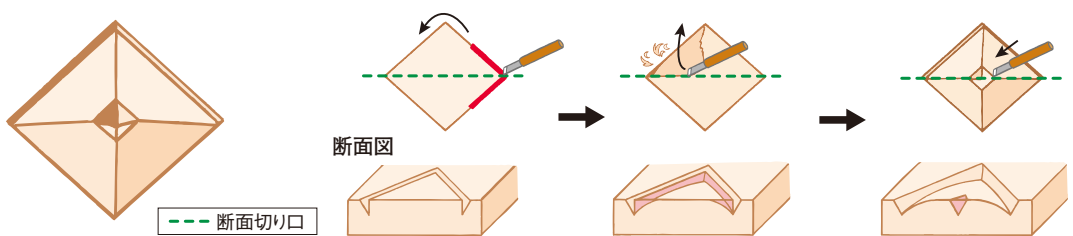
中央にはシクノカ (ひし形) を入れます。
 すじ彫りをした線に沿って斜めに切り出しを入れ、中心が高く浮き上がるようにします。(写真127)
 その中心にもシクノカを彫り込みます。(写真128)



写真127



写真128



続いて、胴体の中央に文様を施します。

ペシクノカ（波形）

シクノカを囲んでアイウシノカが置かれています。

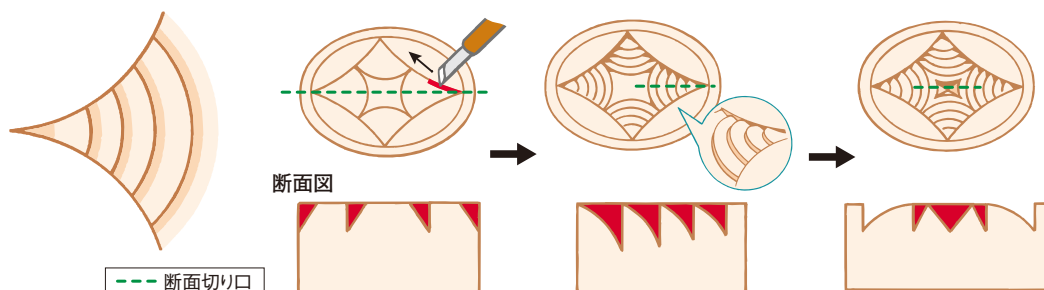
シクノカのまわりに波紋のように線を刻みます。この文様はペシクノカ（波形）と呼ばれています。波形の線の内側の面をひとつずつ斜めに削ります。（写真129、130）



写真129



写真130



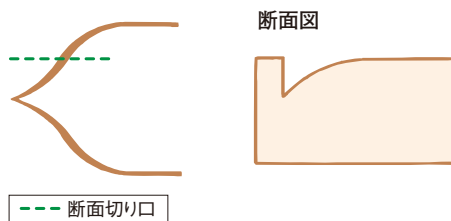
続いて、アイウシノカの中の文様を彫ります。

輪郭に沿って切り出しを斜めに入れ、面を削ります。（写真131）

輪郭の内側に線を引いていきます。



写真131



ラムラムノカ（うろこ形）

アイウシノカの内側にうろこの形を意味するラムラムノカと呼ばれる文様を入れます。
最初に、切り出しを使い、斜めに0.2cmほどの間隔で線を入れます。(写真132)
そして、同じ間隔で格子状に入れていきます。(写真133)



写真132

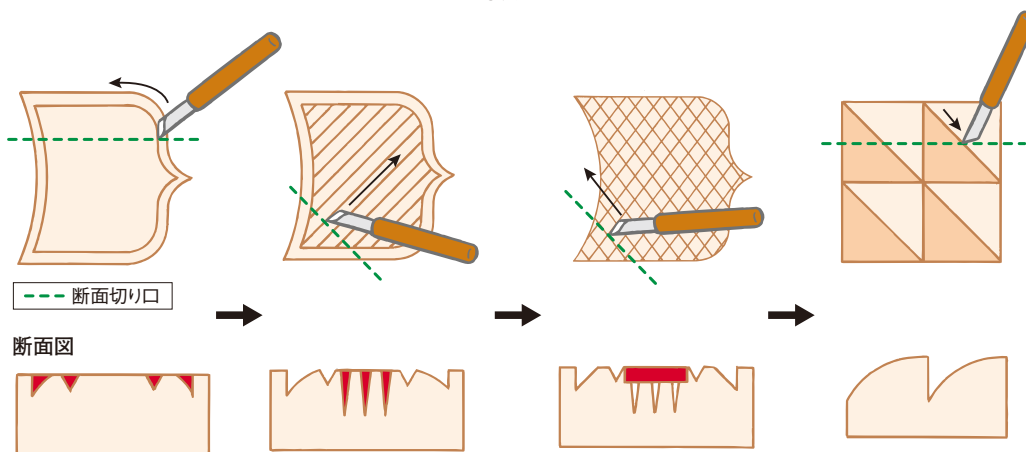
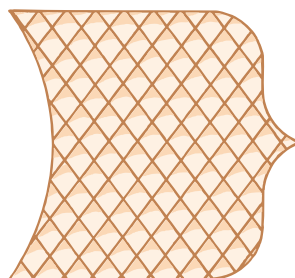


写真133

次に、線で囲まれた四角の中の小さな面を削ります。
切り出しの先を使い、四角の内側の半分だけ斜めに削りとります。(写真134)
割れないように、切り出しは木目に沿って入れます。



写真134



胴体の文様の出来上がりです。(写真135、136)



写真135



写真136

たばこ入れのふたにも同様に文様を彫ります。(写真137)

図柄はたばこ入れの側面に合わせ、円形の中にシクノカとペシクノカをあしらった文様と、アイウシノカとラムラムノカを組み合わせました。(写真138)



写真137



写真138

完成

たばこ入れの出来上がりです。
(写真139)



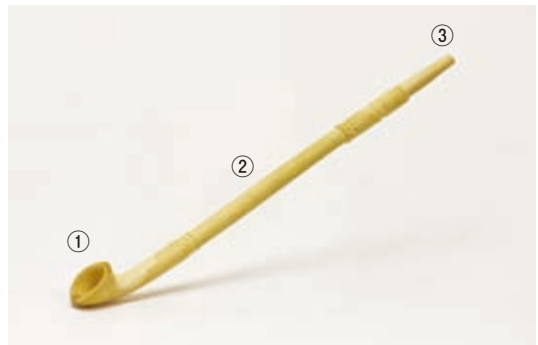
写真139

ニキセリ (木のきせる)

きせるは、雁首 (写真140の①)、羅宇 (写真140の②)、吸い口 (写真140の③) から出来ています。

きせるの多くは雁首や吸い口の部分を金属で作られていますが、アイヌの人々のきせるには木で作られたものも多く見られます。

今回は長さ30cmの木のきせるをつくります。



①雁首 ②羅宇 ③吸い口

写真140

火皿をつくる

最初に、たばこの葉をのせる火皿をつくります。火皿の裏にあたる部分を平刀で丸く削っていき、長い方の径が4 cm、短い方の径が3 cmの楕円形にしていきます。(写真141、142)

雁首の根元の部分を丸刀や切り出しで整えていきます。

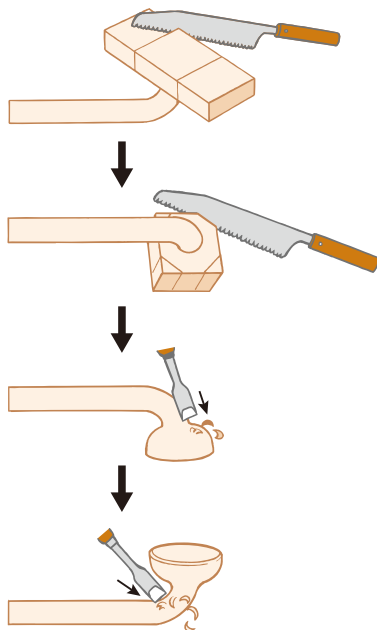


写真141



写真142

次に、火皿の上の面を平刀を使って平らし、たばこを入れる部分を削ります。(写真143、144)
 芯の部分が煙を通す管となるので、芯は火皿の中心にくるようにします。
 火皿は薄くしすぎると火をつけたときに燃えてしまうので、厚さは0.5cm程度にします。



写真143



写真144

火皿の形が出来ました。火皿の大きさは外側の径が4cmと3cm、内側の径が3cmと2cmです。

(写真145)

周囲の角は落としておきます。(写真146)

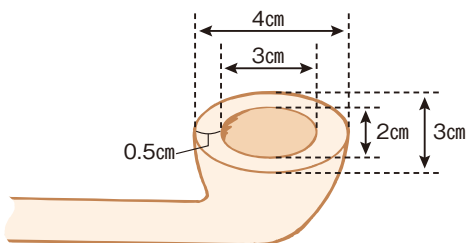


写真145



写真146

表面の加工

なめらかに仕上げるために、表面の緑色の樹皮を削ります。(写真147)



写真147

穴をあける

ストーブで熱した鉄の棒を使い、きせるの中心に煙を通す穴をあけます。吸い口の部分から枝の芯に一気に差し込みます。(写真148、149、150)

芯の部分はやわらかいため、この方法で穴をあけることができます。



写真148



写真149



写真150

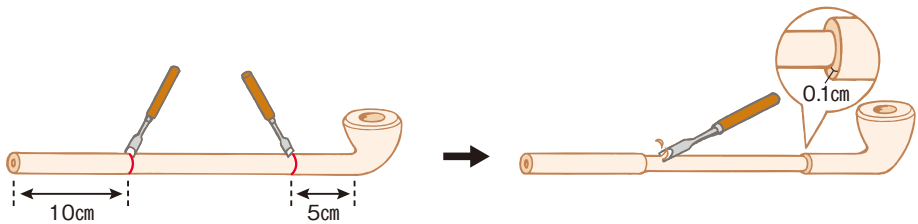
羅宇の加工

火皿の根元から5cmほどのところに平刀で切り込みを入れます。吸い口から10cmほどのところにも同じように切り込みを入れます。

線と線の間を0.1cmほど削ります。(写真151)



写真151



吸い口の加工

次に、吸い口から5cmのところに切り込みを入れて、吸口から線の間を0.1cmほど削っていきます。

(写真152)

吸い口の角を落とします。(写真153)

吸い口の加工が終わりました。(写真154)

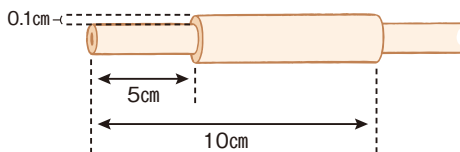


写真152



写真153



写真154

文様を入れる

きせるに文様を入れていきます。

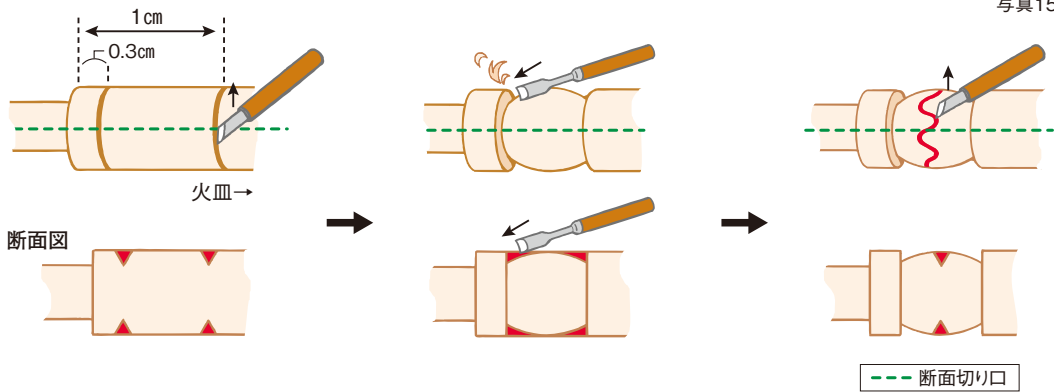
火皿から10cmほどのところに入れた切り込みから0.3cmと1cmのところに線を2本入れ、その線に沿って斜めに削って丸みを持たせます。

2本の線の中央に、波形に文様を入れます。

(写真155)



写真155



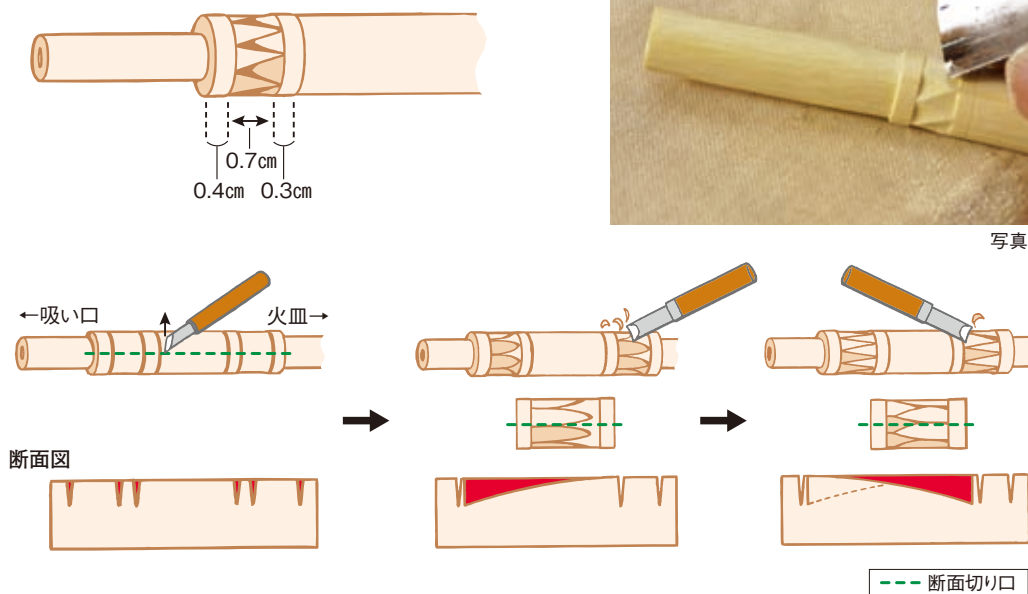
続いて、吸い口から5cmと10cmに入れた切り込みからそれぞれ0.4cm、0.7cm、0.3cmのところに帯状の線を入れます。

大きめの丸刀を使って、文様を入れていきます。(写真156)

連続した三角形の文様が立体的に浮かび上がりました。



写真156

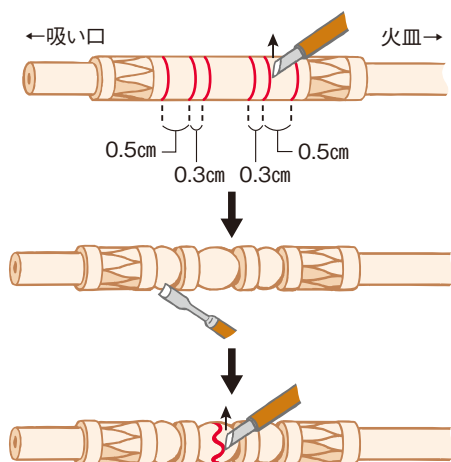


さらに、先ほど入れた切り込みからそれぞれ0.5cmと0.3cmのところに切り込みを入れ、線の両側を斜めに削り、丸みを持たせます。

中央の丸みには波形の文様を入れます。(写真157)



写真157



完成

きせるの出来上がりです。

(写真158、159、160)



写真158



写真159



写真160

きせる差し

材料の加工

イタヤカエデの丸太を4分の1の大きさに割ります。
木目のきれいな方を選び、ここから厚さ3、4cmほどの板をとります。(写真161、162)



写真161



写真162

最初に、平刀と木槌を使って表面を削っていきます。このとき、きせる差しの表になる方にわずかに傾斜をつけておきます。(写真163)

完成したきせるを合わせてきせる差しの大きさを決めます。(写真164)

今回つくるきせる差しは長さ37cm、幅3.8cmです。



写真163



写真164

表面の加工

片方の端からおよそ10cmのところに鋸で深さ0.7cm程度の切り込みを入れます。(写真165)

切り込みから先にかけて傾斜をつけながら、表側を削っていきます。(写真166)

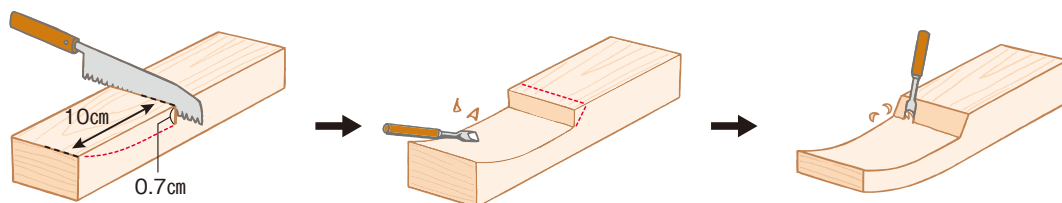
切り口の部分は斜めに削ります。



写真165



写真166

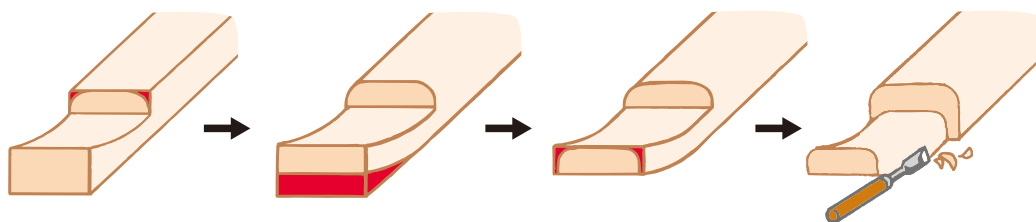


表になる方を丸みをつけるように削っていきます。(写真167)

きせる差しの表面全体がなだらかな丸みを帯びています。



写真167



裏側はきせるの形に合わせて、わずかにそるように削ります。(写真168)

先端部の表面も丸みをつけ、両側面の端も削ります。

とげのある形に削りました。表面はゆるやかに曲面を描き、立体的なものとなっています。(写真169)



写真168



写真169

受けをつくる

次に、きせるを差し込む受けをつくります。

最初に、きせるの火皿の部分に合わせ、丸刀で印をつけます。(写真170)

受けの形はきせるの火皿の形に合わせて作り、たびたびきせるを合わせてみます。(写真171)



写真170



写真171

きせる差しの裏、きせるの羅字があたる部分に溝をつくります。(写真172)

受けを少しずつ広げていきます。

受けの位置を確かめ、裏側からも削ります。(写真173)



写真172



写真173

火皿の形に合わせて、表側の受けを広くしていきます。
受けが大きくなりすぎないように、少しずつ広げていきます。

裏側の溝も同じように少しずつ削っていきます。

今回つくった受けの大きさは長い方の径がおよそ3.5cm、
短い方の径がおよそ2cmです。(写真174、175、176)

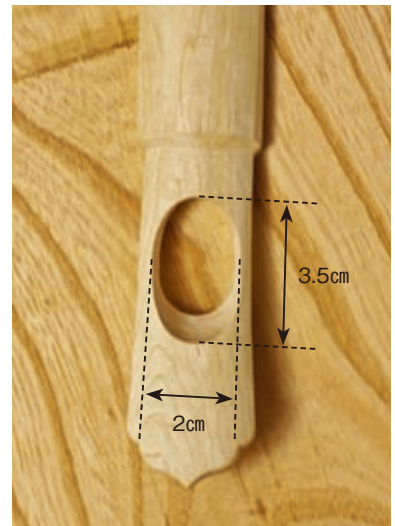


写真174



写真175



写真176

文様を入れる

デザインの基本は、たばこ入れと同じです。

シクノカとアイウシノカの組み合わせです。

きせる差しの中央にはシクノカがおかれ、その周囲をペシクノカが囲んでいます。(写真177、178)



写真177



写真178

きせるを通す受けの近くにはきせると同様、波形の線を彫ります。(写真179、180)



写真179



写真180

ひとつひとつの小さな四角の中に彫刻刀を斜めに入れながら面を削っていきます。

ラムラムノカを彫り込んでいきます。(写真181)



写真181

仕上げ

キリを使って、きせるを留めるための紐を通す穴をあけます。(写真182)



写真182

きせる差しの端に3本の線を刻みました。これは、古くから平取でつくられた工芸品に刻まれていた印です。(写真183)



写真183

完成

きせる差しの出来上がりです。(写真184)



写真184

緒締め

緒締めをつくる

きせる差しとたばこ入れをつなぐ紐につける緒締めには、今回は鹿の角を使います。

最初に、鋸を使い、角を縦に半分に切ります。(写真185)

切り取った面の中心部分をやすりで削っていきます。(写真186)



写真185



写真186

枝分かれしたもう一方の角を、根元から3cmほどのところで切ります。(写真187)

溝を削った方の中心からキリで穴をあけます。(写真188)

この穴にはたばこ入れときせる差しをつなぐ緒締めの紐を通します。



写真187



写真188

やすりで表面を削り、形を整えていきます。(写真189)
緒締めの上になる部分にくびれをつくります。(写真190)



写真189



写真190

彫刻刀を使って表面の黒い部分を削り、なめらかにします。(写真191)
緒締めの上の部分に縦に筋を入れていきます。(写真192)

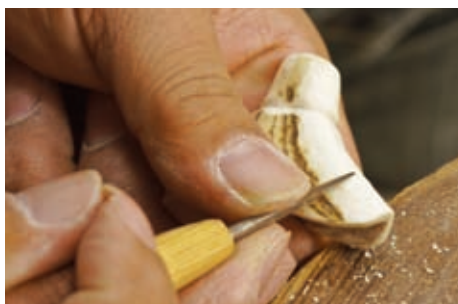


写真191



写真192

完成

緒締めの出来上がりです。(写真193、194)



写真193



写真194

完成

最後に、緒締めを通して、紐でひとつに結びます。

紐に使う材料はアイヌ語でアツと呼ぶオヒョウの内皮を編んだものです。

紐をきせる差しのふたつの穴に通します。このとき紐の長さは左右に40cmほど出します。

紐の長さを80cmほどに切り、ふたつの穴の間に輪をつくります。

この輪がきせるを留める部分になります。(写真195)



写真195

緒締め紐を通して。続いてたばこ入れのふた、そして胴体の順に紐を通して。(写真196)

胴体の底で二重の玉結びをつくります。(写真197)



写真196



写真197

余分な長さを切り、紐を引いて底のくぼみに収めると完成です。

(写真198)



写真198

たばこ入れときせる、きせる差しの出来上がりです。(写真199、200、201)



写真199



写真200



写真201

おわりに

日々の生活において、アイヌの人々は、生活用具の形に、あるいはその生活用具に施された文様などに「美」を創造してきました。そうしたものの一つである喫煙具にも伝統性を踏まえながら、作者の個性が表現された独特の文様が施されています。江戸時代には、その文様の美に魅せられ、本州からきた多くの人々が求めています。

この喫煙具の文様・形をとおして、日々、美と共生してきたアイヌの人々の感性の豊かさがうかがわれます。



「酒宴図」 北海道開拓記念館蔵

参 考 文 献

喫煙具の製作にあたって参考となる文献をいくつか紹介します。

- S P bーアイヌプロジェクト調査団
1998：『ロシア科学アカデミー人類学民族学博物館所蔵 アイヌ資料目録』草風館
- アイヌ文化保存対策協議会
1969：『アイヌ民族誌』第一法規出版株式会社
- 旭川市博物館
2000：『旭川市博物館所蔵品目録』XI 民族資料／携行品関係 旭川市博物館
- 井上紘一／V. M. ラティシェフ
2002：『樺太アイヌの民具』北海道出版企画センター
- 宇田川洋
2001：『アイヌ考古学研究・序論』北海道出版企画センター
- 大塚和義
1991：『蝦夷風俗圖式 蝦夷器具圖式 元旦記』株式会社安達美術
- 荻原真子、古原敏弘、ヴァレンチーナV. ゴルバチョーヴァ
2007：『ロシア民族学博物館所蔵アイヌ資料目録』草風館
- 蠣崎波響
1988：『夷酋列像』図書裡会
- 萱野茂
1978『アイヌの民具』株式会社すずさわ書店
- 金田一京助、杉山寿栄男
1973：『アイヌ芸術』第二巻 木工篇 北海道出版企画センター
- 河野広道著作集刊行会
1971：『北方文化論 河野広道著作集』I 北海道出版企画センター
1972：『続北方文化論 河野広道著作集』II 北海道出版企画センター
1972：『続々北方文化論 河野広道著作集』III 北海道出版企画センター
- 埼玉県立博物館
1972：『「アイヌ文化展」展示品図録』埼玉県立博物館
- 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
1998：『アイヌの美・彫る ―清野謙次コレクションを中心に―』
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
1999：『アイヌの四季と生活 十勝アイヌと絵師・平沢屏山』
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
2000：『財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構収蔵品目録』1
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
2002：『海を渡ったアイヌの工芸 ―英国人医師マンローのコレクションから―』
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
2003：『財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構収蔵品目録』3
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

- 2004：『財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構収蔵品目録』 4 森資料
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
- 2004：『樺太アイヌ民族誌 ―工芸に見る技と匠―』財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
- 2005：『ロシア民族学博物館アイヌ資料展 ―ロシアが見た島国の人々―』
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
- 2007：『財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構収蔵品目録』 5
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
- 2008：『アイヌの工芸 ―ペンシルバニア大学考古学人類学博物館ヒラーコレクション―』
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
- 2009：『アイヌの美 ―カムイと創造する世界―』財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
- 財団法人アイヌ民族博物館
1989：『アイヌ民族博物館 児玉資料目録』 I 財団法人アイヌ民族博物館
- 市立函館博物館
1987：『児玉コレクション目録』 II アイヌ民族資料編 市立函館博物館
- 杉山寿栄男
1992：『アイヌ文様』北海道出版企画センター
- 高倉新一郎
1973：『アイヌ絵集成』番町書房
- 東京国立博物館
1994：『東京国立博物館図版目録』 アイヌ民族資料篇 東京美術
- 苫小牧市博物館
1988：『苫小牧市博物館所蔵資料目録』 2 アイヌ民族資料目録 苫小牧市博物館
- 平取町立二風谷アイヌ文化博物館
2003：『北海道二風谷及び周辺地域のアイヌ生活用具コレクション』
国指定重要有形民俗文化財 調査報告書 平取町教育委員会
- 北海道開拓記念館
1973：『民族調査報告書』 資料編Ⅱ 北海道開拓記念館調査報告第5号 北海道開拓記念館
1998：『小倉・北海道観光物産興社・W・カーティスコレクション他』
北海道開拓記念館一括資料目録 第32集 北海道開拓記念館
2003：『旧拓殖館所蔵民族資料コレクション』北海道開拓記念館一括資料目録 第37集
北海道開拓記念館
- 北海道立旭川美術館／北海道立近代美術館編
1992：『「蝦夷の風俗画 ―小玉貞良から平澤屏山まで」展図録』
社団法人北海道美術館協力会
- 山田秀三
1969：『北海道のアイヌ地名十二話』
- 山本祐弘 知里真志保協力
1970：『樺太アイヌ・住居と民具』相模書房

喫煙具を展示・収蔵している施設

喫煙具を展示、あるいは収蔵している施設をいくつか紹介します。

◎北海道内

- | | |
|---------------------------------|--------------------|
| ●阿寒アイヌコタン | 釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目7-19 |
| ●旭川市博物館 | 旭川市神楽3条7丁目 |
| ●網走市立郷土博物館 | 網走市桂木町1-1-3 |
| ●浦河町立郷土博物館 | 浦河町西幌別273-1 |
| ●帯広百年記念館 | 帯広市緑ヶ丘2 緑ヶ丘公園内 |
| ●萱野茂・二風谷アイヌ資料館 | 平取町字二風谷79-4 |
| ●川村カ子トアイヌ記念館 | 旭川市北門町11丁目 |
| ●釧路市立博物館 | 釧路市春湖台1-7 |
| ●財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 | 札幌市中央区北1条西7丁目 |
| ●財団法人アイヌ民族博物館 | 白老町若草町2-3-4 |
| ●札幌市アイヌ文化交流センター
「サッポロピリカコタン」 | 札幌市南区小金湯27 |
| ●標津町歴史民俗資料館 | 標津町字伊茶仁2784 |
| ●昭和新山アイヌ記念館 | 有珠郡壮瞥町昭和新山 |
| ●新ひだか町アイヌ民俗資料館 | 新ひだか町静内真歌7-1 |
| ●弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民俗資料館 | 弟子屈町字屈斜路市街1条11 |
| ●苫小牧市博物館 | 苫小牧市末広町3-9-7 |
| ●のぼりべつクマ牧場 ユーカラの里 | 登別市登別温泉224 |
| ●函館市北方民族資料館 | 函館市末広町21-7 |
| ●美幌博物館 | 美幌町字みどり253-4 |
| ●平取町立二風谷アイヌ文化博物館 | 平取町二風谷55 |
| ●北海道開拓記念館 | 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 |
| ●北海道大学植物園・博物館 | 札幌市中央区北3条西8丁目 |
| ●北海道立アイヌ総合センター | 札幌市中央区北2条西7丁目 |
| ●北海道立北方民族博物館 | 網走市潮見309-1 |
| ●幕別町蝦夷文化考古館 | 幕別町千住114-1 |
| ●北海道埋蔵文化財センター | 江別市西野幌685-1 |

◎北海道外

- | | |
|--------------|--------------------|
| ●東京国立博物館 | 東京都台東区上野公園13-9 |
| ●日本民芸館 | 東京都目黒区駒場4-3-33 |
| ●東北大学総合学術博物館 | 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 |
| ●静岡市立芹沢銈介美術館 | 静岡市駿河区登呂5-10-5 |
| ●大阪人権博物館 | 大阪府大阪市浪速区浪速西3-6-36 |
| ●国立民族学博物館 | 大阪府吹田市千里万博公園10-1 |
| ●天理大学付属天理参考館 | 奈良県天理市守目堂町250 |
| ●松浦武四郎記念館 | 三重県松阪市小野江町383 |
| ●広島県立歴史博物館 | 広島県福山市西町2-4-1 |

アイヌ生活文化再現マニュアル
喫煙具
【タンバクオブ・ニキセリ】

2011年3月 発行

発行 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目

プレスト1・7 (7階)

TEL (011) 271-4171 / FAX (011) 271-4181

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で禁止されていますので、あらかじめ財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構あてに許諾をお求めください。